

木造集合住宅の床遮音向上へ

独自仕様の性能値など報告

チームティンパライズ

NPO法人チームティンパライズ(藤原幹雄代表理事)は17日、吉野石膏虎ノ門ンホール(東京都)で都市木造セミナー「床・壁の作り方」遮音・断熱を開いた。

ティンパライズの理矢吹町災害公営住宅(在来工法で階建てと宅プロジェクトの床遮音の手法を紹介。木造床遮音システムの開発を行ってきた鈴木敏男氏(淡路技建)と渡辺大助氏(ミサワホーム総合研究所)が取り組みを解説した。ティンパライズがかかわってきたのは下馬プロジェクト(RC1階十木造4階、マッシュホルツなど)と赤羽プロジェクト(FWS工法)。

下馬プロジェクトはCLT240と在来床を直交し、防振発泡ポリウレタン20mm、B十遮音シート4mm、フローリングで重量床衝撃音・軽量床衝撃音Lr60の性能。

赤羽はFWS床で38階建て、重量床衝撃音Lr60、軽量床衝撃音Lr55の性能を得た。矢吹町共同住宅は



床遮音について講演した渡辺氏(右)、鈴木氏(中央)、久原裕理事

120X240の大梁を910mmピッチで入れ、天井は石膏ボード12・5mmに2枚張り。床は構造用合板24mmの上にゴムと台座を載せ空気層を作り、P

B20十遮音シート8mm、石膏ボード15mm、フローリング12mm仕上げという乾式二層二重床(特許出願中)の仕様にした。重量床衝撃音Lr60、軽量床衝撃音Lr55の性能を確認した。

今年の第1回講義は21人の受講生で始まった。なかには前年度から続けて参加している受講生もいる。瀬戸理事長は「セミナーを通じて、受講生同士の横のつながりも広がっている」と期待を話した。

収穫可能地域の見通しを 伐採圏の奥地化を指摘

ひむか維森の会・セミナー

4月からは2000平方メートル以上の非住宅建築物では省エネ適判を受けないと確認申請を出せなくなることや、完了検査時に適判の内容とおり施工されているかの確認を行っている。安易にV/E提案などを受けると後の手続が難しくなることなどへの注意を呼び掛けた。

宮崎県の素材生産業者などの有志で組織する、ひむか維森の会(松岡明彦代表理事)が、国有林の林道延伸による資源開発の現状について講演した。宮崎県の綾、国富町の国有林にある大川原林道を事例として取り上げて、

取獲期に入り林道の延伸が進んだが、一時期の勢いが落ちると落ち着き気味となって

「むやみに林道を伸ばすべきではない」と指摘した藤掛氏は、

「伐採不可能資源として残さるを得ない地域があることはやむを得ない」とし、それは資源量から排除し今後順の生産計画や供給可能な

は15日、宮崎市内で通常総会と併せて第24回未来の林業セミナーを開いた。県内外から多くの関係者が出席した。

主伐が盛んな宮崎県では、素材生産量の拡大とともに林道沿いの資源の枯渇と伐採地域の奥地化が懸念されている。今回は、藤掛一郎宮崎大学農学部教授が、国有林の林道延伸による資源開発の現状について講演した。宮崎県の綾、国富町の国有林にある大川原林道を事例として取り上げて、

取獲期に入り林道の延伸が進んだが、一時期の勢いが落ちると落ち着き気味となって

「むやみに林道を伸ばすべきではない」と指摘した藤掛氏は、

「伐採不可能資源として残さるを得ない地域があることはやむを得ない」とし、それは資源量から排除し今後順の生産計画や供給可能な



「むやみに林道を伸ばすべきではない」と指摘した藤掛氏

手掛ける丸嘉(同)の岩井紀子氏など女性新規会員が加入した。岡野前会長は昨年を振り返り「終わってみると早かった。恒例のクリスマス会では劇を通じて皆の絆が深まった」と話しOBにも協力の必要性を訴えた。OBを代表して京都府木材協同組合の若山義典副理事長は「一戦後の新生日本とともに京青会は歩んできた。歴代会長・役員の方々が受け継がれてきた」と語った。

3年目の木造建築セミナー始まる

耐久性や健康視点の講義追加

日田木材協同組合

今年で会館10周年を迎える日田市民文化会館(パトリア日田)を、日田木材協同組合新事務所担当による視察も行う。そのほか中大規模建築物の木造化などにかかわる著名な講師を全国から日田

今年第1回講義は21人の受講生で始まった。なかには前年度から続けて参加している受講生もいる。瀬戸理事長は「セミナーを通じて、受講生同士の横のつながりも広がっている」と期待を話した。

4月「木材・木質材料・木質構造」(安藤直人東京大学名誉教授)、「木造の構造デザイン」(福山弘博デザイン代表の福山弘氏の科学)。(谷田貝光克東大名誉教授)、「大川組子となつ星につ

新会長に四辻吾朗氏

「若い力で盛り上げたい」

京都市木材青年会(京都市、四辻吾朗会長)は15日、京都木材会館(京都市)で通常総会を開いた。神社仏閣建築用材専門の四辻吾朗氏(京都市)の四辻吾朗氏が、岡野健太郎前会長から引き継ぎ会長となった。

四辻氏は「木材業界を若い力で盛り上げた。今まで参加していなかった休職会員に参加を促し役員として貢

京都市木材青年会 献してもらいたい」とあいさつした。同会には京都府木材連合会の野間理恵子氏、天然木・ムクフーリングを

府木材協同組合の若山義典副理事長は「一戦後の新生日本とともに京青会は歩んできた。歴代会長・役員の方々が受け継がれてきた」と語った。



若者の活躍を訴える四辻新会長